

## はじめに：令和 7 年度エリア・協創ミーティングについて

令和 6 年度より二層構造でスタートしたエリアミーティングと協創ミーティングが、今年度も同様の形式で開催されることとなりました。エリアミーティングは、地域に新たに参画するきっかけを作ることが主な目的として設置されています。そして協創ミーティングは、これまで長い間エリアミーティングに携わって来られてきている方々と、持続可能な地域の雰囲気づくりについて検討・検証する場と位置づけられており、その先には既存地域活動団体という存在があります。

### 第 1 回 協創ミーティング 開催報告

日時：2025 年 6 月 28 日（土）14:00～16:00

会場：東寺方複合施設 3 階 市民ホール

第 1 回は、多摩市が事前に準備したプログラムのもと、「関心層を増やすためには」というテーマで 2 時間の議論がなされました。参加者は全体で 9 名。ゼミからは 3 年ゼミを中心とした参加がありました。

最初に、多摩市のビジョンについて、市より 10 分間の説明がなされました。その後、当日のテーマに沿った本題に入りました。はじめに、寺小屋プロジェクトに携わった参加者による、地域で寺小屋イベントを開催した際の気づきについて話し合いがなされました。気づきの一つとして、寺小屋イベント参加者からの感想は好評であったものの、参加者数自体が少なかった点が挙げられました。この点について、参加者からは、独立したイベントによる開催でなく、定期的に行わ

れている様々な既存イベント内で実施する方法がよいのではないかと提案がなされました。

前年度エリア協創合同ミーティングでも明らかにされたとおり、「単体プログラム実施よりも、気楽に集まっているイベントの中で開催した方が参画しやすい」といった議論に通ずるものがありました。前年度における、エリア協創合同ミーティングでは、「音楽ミニコンサートを楽しみながら子育てのことで立ち寄れる話せる場」といった具体的な掛け合わせの案が出てきていました。

イベントへの呼びかけや声かけというテーマから、次に「あいさつ」に関するテーマに移りました。「時と場合を見極める力」が必要とされるものの、やはり「あいさつ」は物ごとの基本として最も大事なことであり、地域全体がお互いに自然にあいさつできる関係性を構築できるようになることが私たちのゴール目標であるとの見解に至りました。

終盤になるにつれ、イベントや活動の参加者を増やすためにはどうすればよいかという点について話し合いがなされました。忙しい方々が多い中、イベントや活動への関心は薄れる一方ではないかとの現状について会場全体で議論になりました。その上で、イベントや活動参加によるポイント獲得制度を導入して評価・貢献を可視化するなど、報酬を得られる機会を積極的に示していく仕掛けが効果的との意見が出てきました。

最後に、忙しい方々が多い中、イベントや活動への参画を促進していくためには、時間はかかるものの、「地域」という

テーマで議論する際には、地域を支えるという一方的な視点ではなく、地域に支えてもらえるという双方向の発想が必要とのコメントもなされました。

この点については、個人や世帯の力を超えた領域で地域を支えているのは、既存の地域活動団体であり、あらゆる人たちが、それぞれに異なる生活リズムの中で、「ある時は支え、またある時は支えてもらえる」しくみに入れるよう、今後の協創ミーティングでは、地域を支えている既存地域活動団体についてより深く考えていくことが改めて求められると示されました。

また、そうした議論を検討・検証していくことが、協創ミーティングでもあり、引き続き地域を担っている方々よりご指導・助言を受けながら、協創推進室とゼミメンバーとで今後の効果的な進め方を探っていくこととしています。

（ゼミ研究室）



写真：第 1 回協創ミーティングの様子